

医療費適正化推進委員からの意見

小児期	◎医療関係
	*医療費や疾病分類を分析し、市民に健康管理の意識改革を促す(被用者保険との比較、分析)
	*お薬手帳の持参を徹底し重複した服薬、無駄の回避をする
	*子育て王国そうじゃと小児無償医療のセットメニューにより医療費に関して金銭感覚が麻痺している印象がある。やむなく無償医療継続困難となったときには、医療費節減につながるのだからワクチン接種公費補助の拡大と抱き合わせで制度改革を進めてもらいたい
	*無償化をやめれば、医療費は削減されるが、やめることにより、他の市町村への住所変更が進めば、医療費の削減効果以上に、市へのダメージは大となる。どうすれば若年者の医療費を削減できるのかを検証し、他の保険者とも連携して、無駄をなくするための取組を推進すべきと考える
	◎生活改善・疾病予防関係
	*小・中・高校生への食育指導が必要
	*こどもを介して親に対して、食事等の大切さを周知する
	*小児医療費無料政策は、小さい内に虫歯を治療する、がまんしないで診療する、費用も安い、これらの面ではいい政策である
	*ワクチン接種率100%を目指すための啓発をする(ワクチン接種費用対効果を実証した)
	*新米の母親には「#8000」をトップページでお知らせする
	*全国の自治体から注目され「さすが!」と言わせる行政を押し進めていただきたい。市民と共に困難を乗り越え「子育て王国」を百年でも二百年でも続くものとしましょう
成人期 高齢期	◎医療関係
	*団塊の世代が8~9年後に75歳に達するため、今から高齢者医療の対策が必要
	*医療費の増大を招く要因として、医療の高度化と新薬の開発がある。高齢化に伴う医療費の増大を最小限に食い止めるために、短期的にはジェネリック医薬品の利用促進と残薬の確認による薬剤の有効利用が必要
	*お薬手帳の持参を徹底し重複した服薬、無駄の回避をする
	*柔道整復療養費増加、保険者がしっかり知識を持ち適正利用の対策を立てる必要がある
	◎生活改善・疾病予防・介護予防関係
	*健診(検診)未受診者への受診勧奨
	*早期治療・生活改善のため特定保健指導・精密検査の受診勧奨、
	*市民の医療費や疾病分類を分析し、市民に健康管理の意識改革を促す。(被用者保険との比較、分析)
	*食生活及び、体力に応じた長続きできる運動の指導
	*中長期的な医療費削減対策には特定健診・がん検診の受診率向上が必要
	*将来の医療費の削減効果と重症化予防の観点からも健診は重要。また、健診結果に基づく、動機付け支援、積極的支援の実施と並行して、再検を要する者や治療を要する者への受診勧奨も大事
*60歳を過ぎると被用者保険の加入者であった者が国保の被保険者となる。若いうちから健診を受け、習慣にしてもらうことが重要である。住民である被用者保険の扶養家族が受診できる機会(市町村健診)を設け、被用者保険の扶養家族も市町村健診の日に健診が受けられることを、広報してはどうか。(ガン健診との同時受診もPR)	
*全市民が自らの健康は自らが守る。病気の治療ではなく予防に徹するよう仕掛けることが大切。全庁あげてあらゆる関係諸機関、団体総ぐるみで健康づくりに取り組む機運を高める。(まちづくり、社協、PTAなど・強力な助っ人では?)	